

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000505		
法人名	社会福祉法人弘成会		
事業所名	グループホームしんとみ希望の里		
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字下富田小島江629番5 (電話) 0983-33-4561		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年7月16日	評価結果	平成21年8月28日

## 【情報提供票より】 (平成21年6月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤0人, 常勤換算7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

### (4) 利用者の概要(平成21年6月17日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	1	要介護2	3
要介護3	4	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84歳	最低 76歳	最高 95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北村医院、宮地歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新富町の東側、田んぼと住宅が混在する一角にホームはあり、隣は母体法人の特別養護老人ホームがある。ホームの中では、広く明るいホールが生活の中心になり、レクリエーション活動で作られた作品が飾られている。隣の特別養護老人ホームや近所の住民との交流も積極的に行われている。職員研修は、法人研修が毎月行われており、外部研修にも参加して、ホームの質の向上に向けて取り組んでいる。また、ホームの日課はあるが、利用者を「日課、時間の枠の中に入れてたくない」という思いが強く、利用者の希望等を優先して日々のケアに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善点があったが全職員で検討し取組、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員に1週間かけて意見等を聞き、皆で自己評価を作り上げた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で出た意見等はカンファレンスで話し合い、運営に取り入れている。会議は、今年度から3か月ごとに開催する予定である。また、町が主催する介護支援専門員連絡協議会等に参加している役場の担当者と意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に県、町の苦情相談窓口や、ホームの苦情担当者を掲示し、意見箱も設置している。また、家族の来訪時に声かけをし、不満等を言いやすい雰囲気づくりをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の公民館で行われている、生き生きサロンへの参加や、併設の特別養護老人ホームでのボランティアによる舞踊等の見物、また、近所の方が友人に会いに来訪されるなどで、交流が行われている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、創設当初からの法人の理念があり、それを活用している。	○	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、ホーム独自の理念を作りあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体の朝礼、ホームの朝礼、ミーティング等で理念に触れている。また、事務所の目につくところに掲示し、日々のケアの実践に向け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の公民館で行われている、生き生きサロンに参加したり、併設の特別養護老人ホームでのボランティアによる舞踊等を見物したり、近所の方が友人に会いに来訪されるなどで、交流が行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、1週間かけて全職員で取り組んだ。また、前回の外部評価で課題となった項目についても、改善に向け全職員で取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見等は、カンファレンスで話し合い、運営に取り入れている。今年度から3か月ごとに開催する予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町が主催する、介護支援専門員連絡協議会等に参加した時に、役場の担当者と意見交換を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホームの便りに担当職員が利用者の生活状況等を記入し、家族に郵送している。出納簿も定期的に確認書に署名捺印があり家族が確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、県、町の苦情相談窓口やホームの担当者を掲示し、意見箱も設置している。また、家族の来訪時に声かけをし、不満等を言いやすい雰囲気作りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できる限り異動は最小限にと考えている。法人内異動、離職がやむを得ない場合も、引き継ぎや移行がスムーズにできるように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われる法人内研修や県の人材研修センター、県のグループホーム連絡協議会等の研修会や勉強会等に参加している。終了後は、職員周知事項ノートに内容等を記入し、全職員が回覧できるようにしている。また、ミーティングでも口頭で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会の定例会や勉強会等に参加したり、町内のグループホームの相互見学や、交流を行いサービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学に来て頂き説明・納得した上で利用につなげている。また、体験利用も行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や得意なことを支援し、利用者からは料理や掃除の仕方を教えてもらうなど、毎日の生活の中で共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の事前調査や日々のかかわりの中で本人に意向を聞いたり、家族の来訪時に情報を得て意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者を担当する職員が、日ごろのかかわりの中で本人や家族の希望や意見を聞き、反映させるようにしている。外の職員からの日常的な情報も出しあい、全職員で介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は、3か月で見直しをしているが、毎月モニタリングを行い、状態に変化があれば随時の見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ドライブは、月に2回～3回行っている。また、墓参り、病院受診は、家族が協力しているが、家族の都合がつかない場合は、職員で対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科に関しては、協力医がかかりつけ医となっている。月2回の定期的な往診の外、毎週土曜日にも連絡があり、状態の悪い利用者がいる場合は往診に来てもらえる体制となっている。それ以外の診療科は、それぞれのかかりつけ医となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の希望があれば終末期もホームで看取る方針である。看取りに関する同意書、看取り体制のマニュアルも整備されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	介助を必要とする利用者がトイレに入ったとき、介護者は、戸を閉めて隣で待つようにしている。また、部屋に入る時は、声かけする配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴などの時間は、利用者を時間の枠の中に入れてたくないという思いから、利用者の希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者がテーブル、おぼん拭きをしたり、ごますり、大根おろしなどのできることを行っている。また、職員も一緒に食事しながら、さりげないサポートが行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回であるが、利用者が希望すれば毎日でも入浴できる。入浴拒否の利用者には無理をせず、時間をずらしたり、清拭をして対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や趣味などを生かし、花の苗を植えたり、草むしりなどの楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物など、ホームの外に出ることを支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中かけていない。外に出る利用者があるが、職員で見守りや声かけなどを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月消防訓練を行っている。また、年1回の総合防災訓練には、地元消防団、近所の方などの参加協力も得られている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分チェック表、排泄表があり、利用者一人ひとりの状況を把握し支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るく造られているホールは、レクリエーション活動で作った作品などが飾られている。テレビがある場所には、畳やいすが置かれ、居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は、畳が敷かれベッドが置かれている。ダンス、レクリエーション活動の作品、家族の写真などが持ち込まれ、居心地よく過ごせる居室作りが工夫されている。		

※  は、重点項目。